

かけそばネット（在宅医療・介護連携推進プロジェクトチーム）

誰もが住み慣れた地域で自分らしい人生を最期まで続けることができるよう「医療・介護・予防・住まい・生活支援」を連携させていく事が必要になっています。

医療と介護の連携が進むことで、日々の利用者の状況が医療（医師・看護師等）と介護職（ケアマネジャー等）で共有されるので、誰に相談しても医療と介護を含めた相談ができます。状況に変化があった時は医療職・介護職の状況が伝わり双方の視点から適切なサービスを受けることができるようになります。

可児市、御嵩町では、在宅医療介護連携推進のため、平成29年8月より医療の専門職（医師、歯科医師、薬剤師、看護師等）と介護の専門職（ケアマネジャー、地域包括支援センター等）によるプロジェクトチームを立ち上げ、次のような取り組みをしています。

<平成30年9月12日 多職種交流会・勉強会>

専門職が集まり事例検討と交流をしました。



<平成31年3月10日 住民向け講演会>

専門職が、入院から在宅生活への連携を劇で紹介しました。



また、毎月50名ほどの専門職が集まり、事例検討とチーム会議（専門職向け研修チーム、専門職向け連携チーム、住民向け広報チーム）に分かれ取り組みの検討をしています。

チーム紹介

研修チーム



連携チーム



広報チーム



平成 30 年度にはこれらの取り組みを住民へ親しみやすくお知らせできるように、ロゴを作成しました。「いつでも“かけ”つけます、“そば”にいます」の専門職の地域に寄り添う思いから、「かけそばネット」の名称で活動をしていきます。

“かけ”つけます “そば”にいます

かけそばネット



「人」という漢字を使い、みんなが顔を突き合わせて円を描くことで、地域包括ケアシステム全体の和（輪）をイメージしています。